

●内田（会長）  
※敬称略

■具体的にどのようなICT化に取り組んでいますか？

保護者へのメール配信、問い合わせ対応、ファイル管理の3点をクラウドサービスで行っています。これまではUSBメモリでデータを管理していましたが、紛失が心配との声がありました。そのため、まず「脱USBメモリ」から取り組むことにしました。具体的には、主に新入生保護者にむけて「PTAガイドブック」を配付し、メールアドレスや氏名などを登録（エントリー）してもらうようにしました。「エントリー」でいただいた内容をクラウドサービス経由で活用できるようにすることで、作業の属人化も解消し、負担軽減に役立っています。

〜クラウドサービスの導入までにどのくらいの時間がかかりましたか？

構築自体は会長と副会長の2名で行い、数日程度で終わりました。ただ、構築そのものよりもどう使ってもらおうか、どんな悩みを解消するか、の検討に時間をかけました。先ほど触れた「エントリー」も、保護者のみなさんに簡単なことからご協力いただき、徐々に慣れていって

もらうことで、安心して参加してもらえるように工夫しています。

〜保護者全員がシステムに参加できているのでしょうか？

メールは全保護者に登録いただいています。他の仕組みについては、わずかに参加いただけていない方がいますが、メールや他の仕組みで相互に補完しているため、どれかの方法で情報提供・共有ができています。

〜ICTと聞くとスキルが必要、と身構えてしまいがちです。何かスキルが必要なのでしょうか？

ほとんどやったことない人でも引継ぎ可能な程度で作っています。技術者じゃないとできないということとはほぼゼロにしています。

〜ICT化する上で、取って対面や学校でやることを大切にしていることがありますか？

やみくもに全てをICT化するのではなく、先生方との細かい情報共有など対面で行う事を重視しています。また、紙



のお手紙も引き続き配付しています。生徒が家庭で保護者にお手紙を手渡すのも教育の二環であり、一方で保護者の利便性のためにクラウドを活用することも大切だと考えています。

例えば、中学校では高校訪問という行事があり、これまでは各保護者に封書を配付していました。こうした作業はICTでスリム化し、その一方で細かい議論は対面で行うことが重要だと考えています。文字では意図が正しく伝えないので、対面や電話でのコミュニケーションを心がけています。

PTA活動の本質を大切にしたいICT活用を進めることで、保護者のみなさんにもPTAの姿がより可視化され、役員募集などにもプラスに働くのではないかと考えています。

# PTAのICT化

クラウドサービスを利用してICT化を開始した美園南中学校と上落合小学校。ICT化を目指した目的や背景について、ご意見を伺いました。

「ICT化※」とは、PC・スマートフォンなどのデジタル機器や情報処理テクノロジーを利用したコミュニケーションのことです。  
※Information Communication Technology

- たとえば…
- ・チャットでお知らせ
  - ・チャットで連絡
  - ・オンライン会議で打合せなど



■現在の取り組みを教えてください。

クラウドサービスを導入し、執行部や各種委員会の活動記録表の作成や、PTA室の予約と共有、保護者へのメール通知等、PTA活動におけるほとんどの業務を行っています。

〜導入に向けてどのような準備を進めたのですか？

広報編集部特別委員長であった小田切さんが、広報誌で人員を募り令和元年度に準備委員会が立ち上がりました。そして令和2年度の二月にクラウドサービスの運用を始めました。

〜小田切さんはICT関連の知識に詳しいのですか？

全く違います。広報畑です。(笑) 上落合小学校には約850名の児童がいますから、これだけの親御さんがいると、「呼びかけるときっと誰かが手を挙げてくれる」という根拠の無い自信はありません。その時誰よりもレスポンスよく「LINE」に反応してくれたのが、現デジタルプロジェクト委員長である織田さんでした。

■利用者の中にはICTが苦手な方もいるかと思えます。馴染めない方もいるのではないのでしょうか？

不安に思われる方には「LINEと一緒です」と言っています。実際に、特別なことはなくてLINEと同じレベルでスマホからアプリを使うことができます。出来る人ができる

〜小田切さんのその行動力と信じる力は素晴らしいですね。

活動記録表をWeb上で皆が共有できるようにしたこと、各委員会の作業内容や状況が見えるようになり、効率よく動けるようになりました。ほとんどの作業が自宅で作れるようになり、学校とのやり取りもオンライン上で出来るようになったことで学校に来る回数がとて減りました。また、運営を行うためにデジタルプロジェクト特別委員会を新たに新設したのですが、任期を3カ月として都度募集するようにしたこと、そのうちの期間であればと男性が多く参加してくれるようになりました。

■今後の予定としてICT化で挑戦してみたいことはありますか？

まだ開始して間もないので、この仕組みを整えて長く続けていけるようにしていきたいと思えます。その為に来年度以降もつと仲間を増やしていかなければと思います。



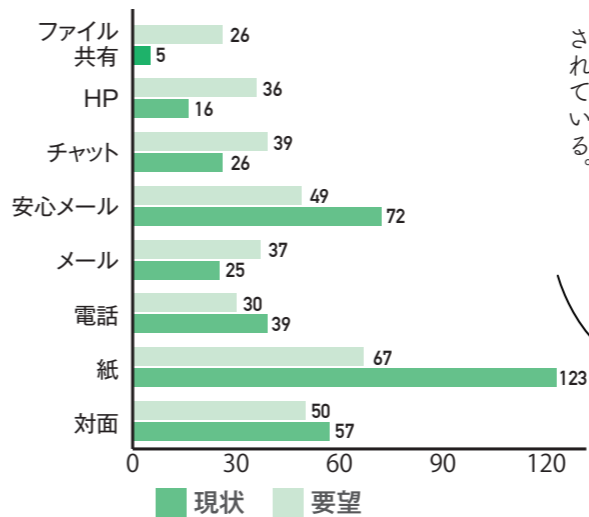
今回のインタビューもICTの利用でweb参加の小田切委員長

●菅野（会長）  
●菅野（前会長）  
●織田（デジタルプロジェクト委員長）  
●小田切（広報編集部特別委員長） ※敬称略

インタビューアー  
●久下（指扇北小・西区）  
●和田（美園小・緑区）

本部と会員間のコミュニケーションについて

様々なアプリを利用して工夫している学校もあります。工夫は凝らされているものの、アプリやメッセージングツールに100%の会員が加入してもらえていないわけではなく、紙の方法もいまだほとんどの学校で利用されている。



PTAでの回線使用について

・90%超の学校では回線接続はしていない一方で、本部役員個人契約の回線に頼る事例が散見される。費用負担は一部補助を出しているものの、PTAではない。  
・モバイル契約をしている学校は26校あるが、どこも契約時に法人契約が認められず、苦勞している。会長名での個人契約もあるようだ。

